

ポケット ジャーナル



と大張り切り。

★映画発祥地神戸に 記念碑を建てよう！

神戸っ子が活動写真を初めて観た神港倶楽部（現在の川重保健会館―中央区花隈町七）のあとに、映画を愛するファンの手で記念碑を建てようという運動が、十二月一日映画の日にスタートした。ちょうどその日



講演のために来神
評論家の
淀川長治
さん大喜
びで賛同
して、初
めて一万円を募金箱に、続
いてファンも。

「私の父親が初めて神港倶楽部で明治二十九年に上映されたキネスコープを観ているのです。世界の映画発祥地ブルックリンにも記念碑はなかったもので、素晴らしい企画私も日本中の映画ファンに呼びかけましょう」

昭和六十年には九十年目を迎える映画の日をめざして、五〇〇万円を目標にレ

ベルのあるいい碑を創ろうと「建てる会」は燃えている。連絡先／月刊神戸っ子（078（31）2246／シネマハウス078（31）4090

★県南庁舎が「迎賓館」・ 「県政資料館」に

県南庁舎は、フランス・ルネサンス様式を取り入れ明治35年に建てられた。それから80年、中央のドームが戦災で焼け、復興された時に三角屋根になったこと以外



県南庁舎

は当時のままだが本庁舎としての役割は果たせないとい

いうことで、県としては敷地が一等地なので移転して跡地に生活文化ホルの建設を検討していた。ところ

が、県下の建築家、文化人グループからの強い要望により現状のまま永久保存されることになった。中庭を改造して大会議室にし、迎賓館や県政資料館として利用する計画。58年度から改築工事にかかっているが、円形屋根も復元され、60年3月のオープンが楽しみ。

★神戸市が緑化基金制度を 設置

神戸市は将来の「ガーデンシティKOBÉ」を目ざして、市民や事業者に緑化基金の寄付を呼びかけている。神戸の市街地は、緑化率では目標の3割にしか達しておらず、市では接道部分の植樹、ブロック塀を生垣に変えるときの助成などに役立てたいとしている。

□お問合せは神戸市中央区加納町6丁目5-1 神戸市土木局公園緑地部計画課 電話331-1818（内）4221

★第2回ノザワハウス・イ ンコーペセミナー開催

地域と建築の文化振興を目的とするノザワ主催のセミナー「ノザワハウスのインコーペセミナー」の第2回が11月12日、神戸市



田中 渡氏

立博物館で催された今回は「中国の住宅」歴史と現

誕生日
ありがとう



みんなの力を集めて！！

おめでとう

「神戸っ子」の読者のみなさま長年にわたるご協力、心から厚くお礼申しあげます。

みなさま、本年もよろしくお力添えをお願いいたします。

発足以来十九年目を迎える本運動の重点目標は、

A 草の根運動の徹底

さらに一人から一人へと本運動の精神をより多くの人へと、運動の輪の広がりを

B 「ちえおくれの話」の頒布

七万冊突破の好評の啓発図書、さらに全国各地で愛読者の拡大

C 啓発紙「運動のしおり・増刊号」の充実、誰にでも気軽な愛読される啓発紙への脱皮を

D 啓発映画「小さな輪・大きな輪」今後、学校教育・社会教育など幅広く利用を呼びかけ

E 啓発本「ネル」の完成

昨年から制作に取組んでいるパネルは、本年完成させて、無料貸出しを開始

F 古切手収集運動の拡大

毎日全国各地からあたたかい心と共に送られてくる古切手、さらに各家庭に職場にと拡大を

G ボランティアの連帯の強化

全国各地の地域社会ボランティアのつながりを強め、一人一人のボランティアの自発的・主体的な実践の積み重ねを

誕生日ありがとう運動本部

60 神戸市中央区御幸通八―一六

神戸国際会館一階の郵便局の隣

電話二五一―八六一内線三六

代」をテーマに、田中淡氏（京都大学人文科学研究所）が1時間半にわたり講演した。内容は、日本と中国の建築の比較や、建築構造を専門的に解説。レベルの高い説明に終始したが、建築分野に興味をもった聴衆が大部分だったため熱心に耳を傾けていた。次回は「東南アジアの住宅」の予定。

★市民同友会35周年

戦後、神戸の市民が集い独自の活動を続けてきた市民同友会が、発足35年を記念して11月26日、生田文化会館で記念会を催した。

冒頭、同会の歴史を綴るフィルム上映。50余名の出席者の中で涙を流す会員も見受けられた。

佐本進南科医の司会進行が始まり、コーラスやバレーエが披露された。また、会員では古株の服部正松藤女子学院大学教授が「会の終焉がいつか来ると思っていたが、なんとしたたかな会。平和を愛する会だから」と



君本 昌久氏

多年尽力してきた君本昌久事務局長に感謝状が贈られた。

★藤井久雄師喜寿記念に

稀曲の演能と出版

神戸在住の能楽界の重鎮、観世流職分藤井久雄師が、

昨年、喜寿を迎えられ、これを記念して、稀曲「関寺小町」を11月19日に湊川神社神能殿にて上演した。この曲は能の中でも最も重要な曲とされ、普通の人ではなかなか演じられない難しいものである。



藤井久雄師

もうひとつ、喜寿記念として、師が数年前から取り組んでおられた、自叙伝的な「雞肋抄」（けいろくしよ）も上梓された。これは、

四百数十頁にも及ぶもので、生いたち、芸談、つれづれの思い出、特に、湊川神社能楽殿建設にまつわる苦心談などが掲載されている。

★「からだの不自由な人の衣服」を発刊

心身障害者のためのファッションをまとめた「からだの不自由な人の衣服」（神戸市立心身障害福祉センター編集）の発行を記念して



恒例の衣服展示会

11月26日神戸市役所で記者発表が行われた。この本は

身障者衣服のニーズをもとに、福祉センターの米田博司さんを初め、センター職員、KFSのメンバーの協力を得て作られた。11月30日にはNHKテレビで放映もされ大いに反響を呼んだ。車椅子の人、松葉杖を使用する人、バギー車を使用する人など、さまざまなケースの人が衣服を身につける社会参加できるように、との理念で編集されており、福祉活動の一環でもある。

★アートをPLAYING

これはユニークな二人展。11月14・19日、大阪・中之島の府立現代美術センターで、共に兵庫区在住の女流アーティスト、間野美穂



間野さん(左)と堀尾さん

子さん、堀尾昭子さんの二人展「PLAYING」が開かれた。堀尾さんは同じくアーティスト堀尾貞治さんの奥さま。展示スタイルは「2個」「回転」「刷る」など40のタイトルをもとに各々が別々に製作した作品を合わせるというもの。堀尾さんは「二人展ならではの可能性を追求してみま

図書ガイド



「ダンスと空想」



田辺聖子著

本書は田辺聖子長篇全集の第二回配本で既刊済みだが、今回新たに本くに子さんが装幀、サンバの踊り子のデザインが神戸色をさらに鮮明にしている。神戸の町を舞台に、ひとりだちしている女性たちの活躍ふりがあますところなく描かれた内容は、相変わらず楽しい。

（文芸春秋刊 ¥1000）



「ほくらのおしぎな夏休み」村上 のぶ子著

日本児童文芸家協会関西支部長でもある著者が、日本・ポルトガルの友好を願う思いを込めて書いた冒険物語。子供の持つ夢を童話の世界に寄せて描いているのは、村上さんのイメージの広がりからであろう。処女出版作品だが、これが、これからも自然に読者に流れるような暖かい作品が期待できそう。

（文芸春秋刊 ¥1300）

「ヨロップの世紀末」

伯爵・神山 宏編

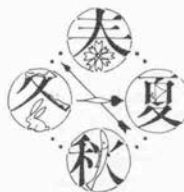
世紀末、世紀末といささかまぶすしい昨今、雑誌「世紀末研究」アンソロジーとして上梓された一冊。そこで語られるのは、フ・オ・パリス、ド・リランド、ヴェルレーヌ、ランボー、ユイズマンであり、執筆者は神山宏、鈴木木漢、山本芳樹、堀江珠喜、田中美広に世紀末研究に研鑽を積んで来た面々。それだけにファン垂涎の一書といえよう。

（JCA出版刊 ¥2000）

した。理屈っぽいのは苦手
「もの」そのものを遊びな
がら作ってみたんです」
間野さんも「自分の回りの
面白いものを自分のものと
して近づけてみました」と。
それぞれの芸術活動そのも
のが「PLAYING」であ
るようだ。

★スイス菓子ハイジ本店に
ティールームがオープン
水道筋にあるスイス菓子
「ハイジ」本店が、11月26
日、これまでのテイクアウ
トショップに加えて、2階
建てのティールームが、オ
ープンした。
店内は、すべて木づくり
で、ゆつくりとケーキやフ

花時計



神戸初雀

初雀というのはやはり
元旦に見る雀のことであ
る。何んとか賑やかな
語感があって面白い。
去年の神戸を賑わわせ
た話題といえは文化的な
世界に多かった。
将棋の谷川浩司名人が
誕生したのは痛快事。
小磯良平画伯が文化勲

レッシジュエースが楽し
める。ま
た、2階
には、バ
イルコニー
もあり、
季節の花
で飾られ
ている。



ハイジ本店
には、バ
イルコニー
もあり、
季節の花
で飾られ
ている。

白い壁にヒゲのおじさん
のイラストのある本店は、
今、注目を浴びている。
★各国のお国柄をしのばせ
るテーブルセッティング
花を通じて国際交流を続
けている「いけばなインタ
ナショナル」の神戸支部前
田美智子支部長・約200名
が、11月11日、神戸外国ク

章を叙勲されたのはやは
り文化界の大きな慶事で
あった。

さて、今年は神戸はい
つたいどんな年になるの
だろうか雀になるう。

今年もやはり北野町界
限は若い人たちの人気の
的で新年早々から賑わう
ことだろう。

そして、早ばやとボー
トアイランドのファッショ
ンタウンにワールドと
ジャヴァが装いも美しく
オープンして神戸つ子の
話題をさらうことになる
やはり神戸まつりは神

ラブで、花を使って食卓を
いかに飾れるかを競うテー
ブルセッティングコンテス
トを開いた。

29テーブル・35人が、手
持ちの食器等を使い正式な
ディナーセットから、くつ
ろいだテーブルセットまで
を表現した。日本からは、



エリー
第1位
第1位
第1位

のお膳がならべられた。
フォーマルテーブルセッ
ティングの部では、スウェ
ーデンのエリー・サンドバ
ーグさんの「結婚記念日」
が第1位に選ばれた。

戸を代表するビツクイベ
ント。秋にはプレユニバ
ーシアードが行われる。

「神戸トータルファッショ
ンフェア」につながる
というが大雑把な動きだ

何んと言っても都市は
イベントによつてきらめ
きをもつようだ。

知恵を集めて真剣に神
戸活性化のプログラムを
用意しなければ、神戸の
沈滞化はまぬがれない。
これは行政ばかりにお
んぶしてはいけません
ならない。初雀翹ひろげ
て降りにけり」鬼城(Y)

KOBE POST

★作家の島尾敏雄さんと木本夫人
マヤさんの二一家が鹿児島県に転
居されました。〒891-52 鹿児島県
給良郡加治木町反土礼立一九七七
番地五

★現代美術の河口龍夫さんの新住
所のお知らせ。〒556 茨木市泉南
桜井並木二丁目二二二(一〇二番
路)5082

★神楽石野証券の新副社長に山川
純三氏と土友久氏が、また石野
喜一氏が専務に、12月10日付で昇
格されました。

★かねてつづの村上健氏が副社長
に12月10日付で昇格されました。

★バイオリニストの北浦洋子さん
が12月10日、曹屋へ転居されまし
た。新住所は、曹屋市岩園町10番
16-511

★月刊神戸つ子の新年会と神戸文
学賞の受賞式が、1月18日(火)元
町会堂ホールで、午後6時より
開かれます。会費/4000円/

お問合せは月刊神戸つ子迄 078
(31)2246

★月刊神戸つ子の編集室が、大神
ビルの7Fから9Fの眺望のよい
ところに移転しました。

お立ち寄り下さい。新編集室は〒650
神戸市中央区東町113ノ1大神ビル
9F 078(331)2246

★1月23日(月)夙川パーソンホー
ルで、第1回外国人が日本語で歌
う愉快なレコード集(レコードを
使っての楽しい音楽講座)を開き
ます。2時と6時30分の2回で、
会費は、800円(お茶付)です

お問合せ・パーソンホール 078
98(36)2006

★パーソン金曜シネマリングリ
ット・パブリック特集II

1月13日(金)「カサブランカ」
1月20日(金)「聖メリーの鐘」
1月27日(金)「凱旋門」
上映時間・1時、4時、7時(3
回上映) 料・700円
お問合せ 0798(36)2006

びっと・いん



★僕たちが創る

パブ・レストラン「^{たて}夢」
山電・板宿駅から北へ5分、ダイエーのすぐ北側に「夢」がある。

マスターの松橋さんによれば「お客さんの飲み気分



今日は集ってワイワイ

を大切にするのが店のモットー」とかで、独りでも、仲間とでも気軽にOK。

緑と白のインテリアがお洒落で若いのも魅力。店を訪れる僕たちが店を創る

といったホットな空間だ。日曜、祭日なら一人2000円の予算でパーティーも開ける。

□ボトルキープ4500円、7PM
11AM 電話73217815

★本格的な割烹料理、空気
が自慢の「志乃家」

昨秋、三宮に日本の味を堪能させてくれる「志乃家」が誕生。「6000円をメドにお酒と割烹料理を召し



地酒の前で、従業員が揃っていた。だきま「夢」と

語る。

地酒を豊富に揃えた同店は空気が（ムード）もお薦めとのことで、クチコミでナイスミドルが訪ねてくる。

商談、接待にも最適で、「旬」を旨く、安く、楽しめる同店は、食通には楽しまなニュースだ。

□中央区下山手通2-10-4シンミ
チビル5-A 電話332110048
逸品懐石と地酒で平均5000円・7000円／予約受付24時間／日・祝祭日休

★トム・キャンティで

毛皮ファッションショー

20周年を迎えて話題豊富

なトム・キャンティで11月

6日、毛皮ショーが開かれ

た。主催したのは、ローズ・セラヴィ・サガノ（大阪）で、神戸進出の足がかりとして企画したもの。モデルが登場するたびに、店内は熱いため息が充満した。



店内で行なわれた毛皮ショー

★「海皇」（ハイファン）がボーアイに移転

海鮮酒家「海皇」が、12

月5日からポートアイランドバル11階で営業を始めた開店10周年を機にしての移転だが、これまでの味にプ

ラスして眺望の良さが加わり、魅力いっぱいとなった。

△海皇V 電話30210008

★レストラン「エスカルゴ」

が新店舗に

フランス料理の店として多くの人に親しまれているレストラン「エスカルゴ」が、ビル新築工事にもな

い（ビル完成は昭和60年9月）新店舗を設けて、営業中だ。ランチタイム（AM

11:30～PM4:00）には特別ランチも実施中。昼食

などにも気軽に利用できそう。

□新店舗／神戸市中央区三宮町1丁目19加藤ビル地下

●神戸うまいもん
とドリンキング

シードレストラン
ムーニークルーズ
三宮生田新道・生田神社前
ムーニービル6F
電話33118980

クラブムーニーライトが創業50周年を迎えたが、これを機に11月24日、クラブムーニーライトが新装オープンし、同日、披露パーティーが盛大に開かれた。また、30日には同ビル6階に直営店のシードレストラン・ムーニークルーズも開店した。この店は、今までのグリル月、ビアハウスにかわるものとして新登場したが、浜田オーナーが「これまでの集大成」と意欲を見せるだけあって、シヤレたムードと、アトラティック・ロブスター



披露パーティーにて

をはじめたとしたシード料理で早くも評判を呼んでいる。

神戸百店会だより

NEWS

NEWS

●美容室エリサベスで
メイクアップ教室
ヘヤー&メイクサロ
ン・美容室エリザベス
で、10月の第1・第3
水曜の3回にわたって、メ
イクアップ教室が開かれた
。畑尾宇多子さんを講師に
お肌のお手入れからシャド
ウやリップのつけ方まで3
回でメイクのすべてを学ぶ
ことができる。



講師の畑尾宇多子さん(左)

一以前からメイクをしていてたけれど、正しいメイクの方法やメイクの楽しさがなかったで、これからは自分にあつたメイクができる」と、受講者にも好評。この教室は2月、3月にも行われる予定。

OPEN

OPEN

● ティールーム「POLO」がセンター街に
元町・大丸前に続いて、3店舗目になる「POLO」センター街店
が、11月12日オープンした。内装も落ちついた雰囲気であ
まり、ゆったりとコーヒータ
ィータイムをくつろぐのに
は最適だ。



落ち着いた雰囲気センター街店

カルーアミルク、カルーアソーダなど、コーヒーリキユールで割った珍らしいドリンクなども揃っており、同店自慢のリゾットコスモポリタン(洋風ぞうすい)は昼食にGOOD。

FAIR

●装いの秋・みよしやから
 ●網の路びとすじ
 大丸前のみよしやが、11月
 11、12、13日の3日間、神戸
 ポートターミナルホールで、
 ●網の路びとすじをテーマ、
 に、謝恩草織逸品大処分会を開催。
 婚礼の準備、秋冬の装い、迎春用
 の装いと
 ものをの帯
 を一〇〇番
 万円均一



秋のムードが漂う会場

加賀振興会指定作家による加賀友禪の展示、'83と'84、フォール&ウィンター・フアーコレクションも併催された。

絹の装いをお客様に届け続けて、70余年のみよしやの信念と、自負が伝わってくるような展示会であった。

SPOT

●リザ・サロンの
初のコンサート

11月24、25の両日
リザ・サロン神戸本店
ヨーロッパフロアで、
“松平佳子”ピアノコンサートが行われた。これは、
ファッションを通して豊かな生活を提案するというリザのテーマに基づいて行われた初のコンサートである
松平さんは、フランス・クレタ女史の門下生で、ヨーロッパを中心に活躍しており、リストなどを得意としている。

FLASH

●ミキモトの社内報が
全国推薦社内報に

報「真珠と宝石のバミキモト社」が、日本経営者団体連盟の社内報選定主催・'83年度全社内報選定行事で、9年連続9回目の受賞を果たした。

社内報選定行事は社内報セクターが昭和41年から行っており、形式や技術面だけの優劣を競うものでなく、表現やレイアウトなど様々な角度から審査し、経営に役立つ社内報かどうかを評価して選定するので、今回の応募総数は33点であった。

真珠業界から他に応募があったが、唯一の受賞であった。



「さろん・ど・みきもと」

他、リストの曲、さらに、アンコールとしてパッハの「アヴェ・マリア」が奏された。いずれも親みやすい曲だが、松平さんの技が冴え、来られたお客様、そして陶酔の境へといざなった。リザでは、今後も文化的な催しを企画している。



リザ・サロン神戸本店で

OPEN!



●美とロマンを届ける
田崎ビルがオープン
「真珠の殿堂」田崎ビルが、ポートアイランド・ファッショントウエンにオープンした。「企業文化」を伝えたいとの田崎俊作社長の考えが具体化されたもので、1・2階の「田崎真珠ギャラリー」、1階の「エスパス・ビジュウ」、2階の田崎ホール「エスパス・メデイエ」などパブリック・スペースが十分にとられている。ギャラリーでは、同社の作品が豊富に展示され販売もしている。エスパス・ビジュウは、真珠や宝石の美をさまざまな手法で表現・構成する展示空間だ。

□田崎真珠・本社
(302) 3321

PEOPLE <16>



●きものは日本が世界に誇る民族衣裳
福田桂三さん<ちんがら屋・取締役営業部長>

昭和43年11月、全国の呉服屋の中で初めて中小企業庁長官賞を受賞した「ちんがら屋」に勤めて22年、神戸生まれ神戸育ちの福田さん。「きものを着ることで、時間と心のゆとりをもってほしい。きものを着ると不思議に気持ちの落ちつきが出来ますよ。」と語る。流行を追わず、時代を重ねても着続けることのできるオリジナル商品を扱っている。

TOPICS

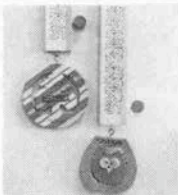
●新年あけましておめでとうございます
神戸百店会一同
●オリエンタルホテルでは、3月31日まで、「第2回・全国地酒まつり」を行っています。グルメシエ全店で、全国47都道府県から地酒50余銘柄、郷土のうまい肴のいろいろ40数種を取り揃えています。詳しくは(331) 8111へ。

●ふぐ・てんぷら・おすしの栄華では、心のかよう送り物にぴったりの味噌漬を用意しています。★銀鱈4切入2300円・5切入2800円・6切入3300円★★鱈4切入3000円・5切入4000円・6切入4700円詳しくは(331) 5772へ



●田崎真珠から

マペパールペンダントを
真珠の美とロマンを届ける田崎真珠より紅色の輝きのマペパールペンダントをプレゼント。3/4まで真円のマペパールを使っており、よりしとやかで清楚な雰囲気を生み出します。
¥25,000を2名様に。



●永田良介商店から

カレンダーを
大丸前の永田良介商店から、木製のカレンダーをプレゼント。お部屋のアクセサリーの1つとして、いつまでも使うことのできる便利なカレンダーです。
¥4,000を2名様に。
(A・ふくろう B・木)

PRESENT CORNER

応募方法 ●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、神戸市中央区東町13-1大神ビル9F「月刊神戸っ子」神戸百店会プレゼント係までご応募下さい。1月20日消印まで有効です。当選者には神戸っ子から当選葉書を発送、葉書を持ってお店まで、プレゼントを受け取りにお出かけ下さい。

多田智満子対談シリーズ ● 午後の対話 12

仏印では戦争は戦争にならなかった

小島輝正〈松蔭女子学院大学教授〉VS 多田智満子〈詩人〉



「仏軍の大將つかまえにいったらニコニコして出てくる」小島輝正さん

ですか。

小島 あんまり深い理由はないんですよね(笑)。僕の出た旧制高校(府立高校、現都立大)はフランス語がなくて英語とドイツ語やってた。でも語学の授業っていやだね、英文と独文だけは絶対やるまじってました。

多田 私も第二外国語はいや応なしにドイツ語取ってました。大体私も語学っていうのがダメで……(笑)。

小島 教室でやる語学って面白くないんですよ。それに当時の東大の英文や独文には偉い先生たちがいてね、英文ならシェークスピア、独文ならゲーテでなくちやいないっていう人ばかり。そんなのはかなわないと思ってフランス文学やろうと思った。高校2年頃からアテネフランセへ通ってフランス語勉強したんです。

多田 そうですか。でも当時の男子学生が文学部にいくっていうのは、よくよく文学好きか、どこへも入れない

あと先の考えもなく仏文へ

多田 小島さんはお若い頃から文学少年だったんですね。

小島 でしたね。中学頃から文学づいてた。

多田 特にフランス文学を始めたのはどうしてなん

か、どちらかですよ。

小島 そうそう。英文はまだ入試があったけど、独文や仏文なんて無試験だったから、高校さえ卒業していれば誰でも入学できた。文学部は英文、国文以外はほとんど定員不足でね、要するに皆、卒業後、就職口のあるところへいくんです。仏文なんて出ても教師の口もない。要するに僕はあと先の考えもなく仏文へいったわけですよ。(笑)。

多田 専攻は何でしたか。

小島 卒論はレイモン・ラディゲです。一番作品が少いから。その前はヴォルテールをやった。でも好きで読んだのはシャルル・フィリップやウジェーヌ・ダビディだ。

多田 卒業されてから、アラゴンなんか翻訳されているところを見ると、やはり少し左翼がかっていらしたのかしら？

小島 いや、高校や大学の頃はむしろ逆でした。右翼とまでいきませんが。愛読したのは亀井勝一郎でした



「戦争もその位にしておけばいいんですよ」多田智満子さん

し、どちらかというと政治的、思想的なものは嫌いでしたね。ところで当時の仏文の先生方は非常にリベラルでね、これが仕合わせでした。小林秀雄なんかもういうところから出てきた人でね、自由な雰囲気があった。講義にあまり出なくても良かったしね。

多田 理想的な環境ですね。出席なんて取らないわけ。

小島 そう。でも赤門附近にはいつもうろうろしていたね、だべったり、酒飲んだりしていた。だいたい僕は昭和17年3月卒業のはずだったんですが、戦争が始まって、昭和16年12月に無理矢理卒業させられた。卒論をラディゲに切りかえたのもそのためなんです。ヴォルテールじゃとても間に合わなかった。12月1日に徴兵検査があって、いわゆる第二乙、一応合格なんです。そして8日には開戦でしょ。ものの半年か一年すると兵隊にとられるっていう。大変でしたよ。

仏印のフランス軍は全然戦争やる気なし

多田 小島さんはベトナムに行っておられましたね。

小島 僕は卒業前に嫁さんもらって、子供もいたので、どこか就職しなくちゃいけないと思ってテレビ局や雑誌社なんか当たっていたんですよ。でも内地にいる限り、いつ兵隊にとられるかわからない。それはかなわんと思って、友人のついでで南洋貿易会という、当時の仏印やタイと日本との貿易をコントロールする半官半民の会社に勤めることにしたんです。その会社は仏印のハノイとサイゴンに出張所があって、しばらくするとそこへ行かせてくれるっていう。外地へ行けば兵隊にはとられないし、フランス語も使える、こ



れはいい、と思った。で、昭和17年の秋に仏印のハノイにきました。

多田 でもベトナムは当時フランスの植民地で、日本は敵国側でしょう。

小島 日本は仏印に進入はしたんですが、占領はしてなかった。一応主権はフランス側が握っていて、日本軍は例えば中国などが攻めてきた時にフランスの主権を守ってやるという形をとっていたんです。

多田 仏印は場所柄、戦略的価値があったのかしら。

小島 日本軍はシンガポールやビルマなどにも行っていましたから、補給線の確保や軍事的な連絡のためにおさえたんでしょうね。鉱物資源もあったし。

多田 小島さんは具体的にどういうお仕事をして？

小島 当時仏印に沢山あった日本の貿易商社の統制をしていたんです。輸出できる物資の数量などを調べて、内地に打電したりね。でも昭和18、19年頃になると、もう船もないから何も入ってこない。

多田 仏印で面白かったこととどんなことがありましたか？

小島 まあ、だいたいにおいて毎晩飲んだくれてましたね(笑)。仏印でできる安物のラムがあったし、一応ビールもあった。上等なのは日本から入ったサントリーの角瓶。あれはめったに手に入らなかったけどね。

多田 仏印での戦況はいかがでしたか。

小島 例えば蘭印(インドネシア)やビルマなどのように戦争でひどいことやってた所の日本兵は命からがら逃

げないといけなかったようですが、仏印では戦争らしい戦争をしていませんからベトナム人も日本人のことをそう悪く思っていなかった。日本軍が仏印を本格的に占領したのは敗戦の半年ほど前でした。

多田 それまではフランス軍と平和共存していたんですか？

小島 ええ。でも戦局が怪しくなって20年3月にちょっと市街戦をやって占領したわけです。でもフランス軍は始めからやる気がないんですよ。僕もそのときは通訳に徴用されたから、フランス軍の大將をつかまえていく、というんで同行したんですよ。少しは抵抗してピストルくらいふりまわすからと思っただけで行ったんですが、なんのことはない、ニコニコして出てきた(笑)。

多田 戦争もその位にしておけばいいですよ。巨大な武器をもちだすと、ろくなことはない。

おおよそ収容所の概念に反する収容所

多田 終戦後はどうなさったんですか。

小島 仏印で収容所に入ったんですよ。兵隊も民間人も。フランス軍のかわりに中国軍が収容所の管理をしていたんです。その中国軍が国境に近い雲南の田舎兵隊でね、例えば、その中国軍の将軍が日本軍の捕虜を集めて演説するんですが、初めて拡声器を使っただけでしょうね、自分の声にびっくりして逃げかかったり(笑)。乗用車も初めて乗ったらしく、フカフカのクッションに驚いてとび上ったり。そんな話がいくらでもありました

ね。

多田 じゃあ、収容所でも楽だったでしょうね。

小島 そりや楽でしたよ。収容所といっても強制的に働かされることもなくて、毎日、酒飲んだり、マージャンしたりしてぶらぶらしてました。収容所の出入りも、身分証明書さえ見れば自由でした。門限は一応あったけどね。

多田 そんな気楽な収容所が世の中にあるのですか。もしこれがソ連だったら、帰れたかどうか分りませんわ。小島 ほんとに、シベリアだったら大変でした。結局収容所暮らしをしたのは7か月くらいでした。

ベトナム人が中国人とフランス人を嫌うわけ

多田 ベトナムでは当時やはり、フランス語ができないと不便だったんでしょうね。

小島 そうですね、ただ、もともとベトナムは長い間、中国の植民地でしたから、中国とのつき合いも長いんです。それにベトナム人は賢明でね、仮に子供が3人いたら、それぞれにフランス語、中国語、日本が入ってから日本語をやらせる。どこの民族に支配されても、必ず誰かがうまくやっていけるようにしているんです。

多田 日本の戦国時代にも、それに良く似たことがありましたね。関ヶ原のような天下分け目の戦のときには、親は東軍、子は西軍というふうな、どっちが負けても生き残れるようにして。

小島 そうですね。でもベトナム人は内心では非常に中

国人ぎらい、フランス人ぎらいでした。とくに嫌ってるのが中国人でした。なにしろ、ずっと支配されていたから。

多田 人種的には近いんでしょうけれどね。

小島 北ベトナムはね。中国人支配の頃は、ベトナムでも漢字使ってたんですが、フランス人がやってきて、全部ローマ字化してしまった。東洋の国で、あれほど徹底的にローマ字化された国語はないですね。しかし、そのフランス人より中国人をきらっていた。なにしろ、ハノイでもどこでも金持ちが皆、華僑でしょう。目抜き通りはザッと華僑の店が占めてる。そりや腹が立つでしょう。次に嫌ってたのがフランス人。これは全くの異人種だからむりもないけど。それにフランス人の威張り方は日本人なんかの威張り方と全然違うからね。

多田 どう違っていますの？

小島 例えば、フランス人の女性はベトナム人のボーイの前で、平気で素っ裸になったりする。つまり相手を全然人間と思っていない、虫ケラだと思ってるんですね。

これが日本人だと、相手がなにかへまをすると、パカヤローなんて言ってどなって頭の一つぐらい小突いたりするけど、あとはやさしい(笑)。すまなかったな、なんていって給料余計にやったりする。フランス人は絶対そういうことはしませんね。ボーイがお皿一枚割っても、ハンカチ一枚失くしても、給料からどんどんさし引いちやう。そうすると結局、給料やらないですむんですよね。それを平気でやってる。相手が食えようと食えまいと知ったことじゃない。虫ケラですから。日本人にはそんな



アコギなことできないんですよ。

多田 日本では女中さんが何か割ったからといって、給料からその分差し引くってことはあまりしませんもの。

小島 しかし、ヨーロッパ人はそれを当然のこととしてやるんですよ。それに日本は戦争中の6年ぐらいしか仏印にいませんでしたし、本当に植民地化したわけじゃ



戦争時代の事になると話にも熱が入ります。

やっていた「文明」という雑誌社に勤めたんですが、これが一年半ぐらいでつぶれてね、次もまた出版社に入ったんですが、これまたつぶれた。それで仕方なく自分でフランス語の下訳などして食いつないでいたんです。中には自分の名前を翻訳出したものもありますけど。その下訳してた頃、同じ下訳の仲間に安東次男がいて、彼が「アラゴンの『レ・コミニスト』という長い小説がある、これで当分食えそうだ」っていうので、「それ！ それ！」っていつてやったのが始まり。あの頃はレジスタンス詩人としてのアラゴンの名前がよく売れてた時で、最初はこの本もよく売れました。安東は昔、左翼でね、僕も東京にいるころから、神戸に来て、第一次安保の頃までは完全に左翼でしたね。

多田 それが、段々さめてきちゃった。

小島 というか、幻想が失せてきたんです。

多田 この頃、小島さんって、とても教育者の情熱を燃やしていらしやるように思うのですが。市民の学校の校長をなさったり。

小島 そんな意識はないなあ(笑)。でもはたから見るとそう見えるかもしれません。自分でも、もうすこし自分のことにかまければ良かったかな、とは思っているんですよ。

多田 たとえばどんなことを？

小島 小説書いたり、要するにもっと自分勝手なことをした方がよかったな。

多田 小島さんは非常に文章がお上手なのに、本になさらないから。

小島 僕はやりだすと凝る方だからね。始めはたいしたきつかけでなくても、やりだすと、やれるとこまでやらないや気がすまない。だから、さわらぬ神にたたりなしで、たとえば、詩なら多田さんのすばらしい詩を読者として読ませていただいている方が気楽なんです(笑)。でもこれからは、もう少し自分のことをしようと思っっているんです。

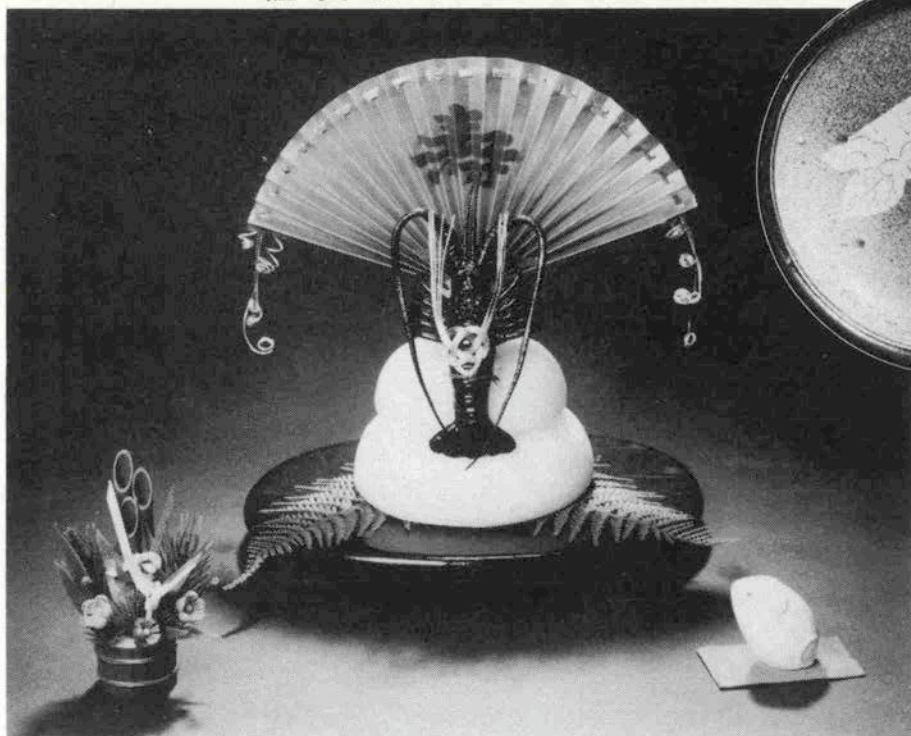
△六甲／ブルーマウンテンにて▽

アラゴンの小説で食いつないだ下訳時代

多田 小島さんがアラゴンに凝りだしたのはいつ頃からなんですか。

小島 引揚げで東京に帰ってから、田宮虎彦が編集長を

謹・賀・新・年



▲瀬戸の石焼き一富士二鷹三茄子図

初春のお慶びを申し上げます
昭和59年元旦
古陶器の逸品に季節の風味を盛って、今年も一層、精進
いたす所存でございます。倍旧のお引き立てを賜わりま
すように何卒よろしくお願い申し上げます。 〈店主〉



焼鳥



釜めし

山形や 裕 久

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東 (阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分)

電話 (078) 452-2905 午後5時—10時 月曜休

(新春は6日から営業させていただきます)

第八回神戸文学賞受賞作品

新連載小説〈1〉

昔の眼

服部洋介 絵／貝原六一



ほとんど客のいない終バスが通り過ぎた。外から、つり皮が疲れ切った老人の性器のようにだらりとぶら下がっているのが見える。運転手だって疲れて家路を急いでいるのであろう。車のほとんど通らぬ夜の道を、客を乗せる意志などどこかに置き去りにしてしまったような猛スピードで鈍重そうなうなりをあげて走り去って行く。

道に面した商店のシャッターはおりており、民家の明りはあまりなく、酒や煙草やジュースの自動販売機の白い明りだけが、まわりの人通りとは無関係に、うつろな光を放っている。中に人が住んで家族の語らいのある光なら、もつとわびしかったろうが、投入されたコインに答えるしか能のない機械に、妙な親しみを感じた。店と自動販売機が並んでいたら俺は、ためらうことなく自動販売機の方を利用するだろう。店番の人間の反応におびえなくてすむからだ。

俺はポケットから財布を取り出し、中をのぞいて二枚の一万円札があるのを確認した。さっきから何度、同じことをくり返しているであらうか。ここへ来て十五分くらいの間に少なくとも七八回は財布を出しては一万円札が二枚あるのを確かめていた。

一回一万円。部屋代は買い手の負担。週刊誌で読んだ情報によれば御休憩が二千円から四千円。御泊まりが四千円から八千円くらい。特殊なしかけのある部屋ならその倍。二万円はそれらに必要な軍資金であった。それか

ら左ポケットにある小さな一箱。中に手を入れふたをあけ、指をさし入れ、つまんでみて、袋の中の潤滑剤のぬるつとした感触で、コンドームがきちんと存在しているのに安心をする。全部で六枚。二枚重ねにすれば、少しは長持ちをするというし、あわよくば、二回目三回目も考えている。これも、シャッターのおりた薬局の前にある自動販売機で買ったものだ。

体中の血が頭のとっぺんに集まり、手足はもちろん、あごの辺りまで骨だけになったみたいで、自分が本当に地面に両足をつけて立っているのかどうかすらわからなかった。頭以外に血が残っている唯一の場所は、両足のつけ根にある例の物だけであった。情緒も何もなく、しびれのきれた足みたいに硬直していた。

女とキスはおろか、手も握ったこともない男が女を買うというのだ。しかも、相手は制服の女子高生なのだ。制服はどうでもよいのだが、まだ十代であるというのが重要であった。私立の女子高で講師をしている大学院にいる先輩からの情報だった。何でも町で女を買おうとした四十くらい歳の男が、相手が制服のままあらわれたのに驚いてしまい、説教をして、タクシーに乗せ、家の近所まで送り届け、翌日になって学校にその旨、連絡して来たらしい。単独ではなく、何人かのグループがあるらしく、目的は洋服を買う金を得るためだ、という。しかも、その学校の生徒でなければ知るはずのない、併設

大学への推せん入学の選考にもれたというような話までしていたらしい。とにかく、かなり信憑性のある話だった。

自動販売機でワンカップの日本酒とママシドリンクを買った。ビールは、小便に行きたくなくなったら困ると思っただからだ。一合の酒は一気にとのどを通り過ぎ、食道に流れ込み、胃の入口あたりがかとあつくなった。手のひらを口へ持つて行き、はあっと息を吐き出し匂いをかいだ。そうしておいて、今度は、葉緑素入りのガムを取り出してかんだ。齒の裏に舌でおしつけては、はがし、甘味がなくなり、あごがつかれるまでかんだ。手に持った洋書のページをばらばらとくった。カーソンマツカラーズの *The Ballad of The Sad Cafe* だった。これから女を買おうというのに見栄を張るのもおかしい話だが、身につけた物に何一つアカヌケたものがないのも気恥ずかしかったので、相手が高校生ということもあり、こんなものを持つてきてしまったのだ。

しかし、本当に制服の女はあらわれるのだろうか。どういう手続きをふむのか、ボン引きが介在しているのか、個人的な流しで直接交渉なのか、喫茶店のような所にたむろしているのか、場所が大体、この辺りだ、という以外に何の手がかりもないのだ。この場所につつ立って一時間近くになるが、近くを通り過ぎた女と言えは、銭湯帰りの、寝巻きの上に直接ガウンを着て頭にタオルを巻いた女がくわえ煙草をして、自動販売機でビールを買って行っただけであつた。

そうこうしているうちに警ら中の巡査から不審訊問を受けてしまった。身分を訊ねられJ大学の学生だと言うと、余計にあやしまれ交番に連れて行かれてしまった。日本人の平均をはるかにこえた体つきのせいか、最初はおっかなびっくりだった警官も、俺が無抵抗なのに段々と居丈高になってきた。当節、革マル、中革の内ゲバ騒ぎが新聞に載らぬ日が一日としてないのだから、学生というのは住所身分不定の浮浪者よりも始末におえなかつ

たようだ。

ここ一年くらい散髪はおろか、ひげものばし放題にしていたのがさらに印象を悪くしたようだ。父が大阪のある大学の学長であることを告げて、

「そんな大学、本当にあるのか」

とか、

「そういう奴の息子にかぎっておかしいのだ」

とか言われてしまった。学生運動などと言うもの、テレビで全共闘運動をながめ、安田講堂事件に胸をおどらせたのがやっとで、秋田明大というのが明治大学の秋田分校のことではなく、日大の学生の名前であることを最近になって知ったくらいで、そのはしくれと思われたことは、かえって光栄なくらいであつた。俺は、高校の一時、確かにゼンキョートーとかゼンガクレンとかいうのにあこがれたことがあつた。しかし、アサマサンゾーくらいからわけがわからなくなり、今は、内ゲバの学生運動に興味はなかつた。東京での身元引き受け人で農林省の研究員である叔父に電話で身分を証明してもらい、ようやく解放されることになった。

翌日、叔父にあやまりに行った。叔父は牛の寄生虫の研究をしていて、四十近くになるのに未だ独身で、五十万円以上もかけて部品を集め、自分で組み立てた自転車に乗って役所に通っていた。昨夜、何をしていて警官につかまったのか本当のことなど言えるはずがなかった。で、様々な言い訳を必死に創作していた。いっぱしの前科者の気分だった。しかし、その点については何もふれられず、

「たまには散髪に行けよ」

と二千元ほどくれた。国家公務員上級職と言っても、東大出ではないし、研究職であつたので、あらゆることに無頓着であつた。寄生虫を調べるために血液をぬきとつた牛は、焼却処分にするらしいが、そこからヒレ肉を切除し、冷蔵庫に入れていた。

「ヒレいらなかい」

寄生虫を調べたあとの肉はさすがに気持ちが悪いので遠慮した。ヒレ肉の包みには家庭厨房用焼却分と書いてあった。

翌日、俺は散髪に出かけた。メンズ・カット・ショッブなどと、しゃれた名がついた店だった。せっかくの二千円だと思い、あちこち歩きまわったが、さすがに美容院は、恥ずかしいのでここにした。普通なら赤白青のアメリカ的なマークの出た散髪屋に行くのだが今日は特別だった。扉を押して入ると、いらっしやい、という声とともに、店中の視線が俺に集まった。昔、俺がよく受けた視線に少し似ていた。子供を相手にする時のやさしい言葉の中に突然入り込んで来る、物体として俺をながめ観察する視線。俺を客体化して、何者であるかの判断を下そうとする視線。

マスターとマスターの奥さんらしいのが、まず顔を見合わせていた。あと二人ほど若い男の子と女の子がいたが、同じように俺を見たあと互いに困ったな、という顔をした。マスターが「僕がやるから」とでも耳うちしたに違いない。奥さんらしいのがうなづいて仕事を続けた。俺は座わって順番を待った。ヤクザがヤクザらしいかつこうをしたがるのがわかるような気がした。強かろうが弱かろうが、それなりの対応をしてくれるのだ。俺は何もヤクザにまちがわれたわけではない。このような店にひどく場違いな感じがしたのである。髪はのびし放題、くし目はなく、ひげもまた、右のもみ上げから左のもみ上げに連なり、あごから鼻の下にもひとまわり支線が広がっているのだ。どんな風なスタイルを客である俺が望んでいるのか、見当がつかなかったに違いない。

俺の番が来た。どうぞ、と言われ席に着くと、奥さんがまずブラシを入れた。その度に白いふけの浮ぶのが照れ臭かったので眼をつむった。下宿にブラシなど持っていないかったのでしきりに髪がひっかかった。何度もぬれタオルをのせて、何んとか、かつこうがついた。そうし

ているうちに、かわるよ、と言ってマスターが近づいて来た。

「どのような致しでしょうか」

「適当に」

「長さは」

「普通」

「ひげは」

「残しといて」

「ちよつとそろえましようか」

「プロにまかせるわ」

「お客さん、大阪」

「いや、神戸やねん」

「学生さんですか」

「丁大」

「あそこ、難しいんだろ」

「さあね」

「俺ね、正直、お客さん見た時、どうしようかと思ったよ。たいてい、この道二十年というやつで、一目見て、どんなヘアースタイルがご希望なのか、わかるんだけどね。お客さんの場合はさっぱりだったね。前に一に連人わからない人がいたけど、中年の人は、話を聞くうちに女の女の人と全く同じのがお望みだったね。わかった時には、もう、びっくりしたよ」

鏡の中をのぞきながら店内を見渡していると、パーマをあてている男も結構いて、奥さんと若い男の子二人と、女の子とが洗髪とパーマを担当しているようだった。隣の席の客が洗髪をはじめた。若い女の子がシャンプーをしていた。麻のブラウスの上から、白いブラジャーの線がすけて見えていた。年は俺よりもさらに若く、まだ高校生くらいにしか見えなかった。化粧つきの全くない長身で、仕事中のせいか無表情であったが、いわゆる美人顔であった。どうせなら、あの子にシャンプーをしてもらいたかった。マスターの手の動きと、隣席の洗髪の進行具合いとを比べてみたが、残念なことに、俺の



髪の上がりの方が、やや早いようであった。
にきびのあととあんな赤ら顔に、ちりちりのパーマをあてた小柄な男の子が、俺の椅子を半回転させ、背もたれをたおし、頭を洗いはじめた。眼前に、にきびの火口を見るのは快よい光景ではなかった。フィリピン留学生が、男の美容師はおカマだ、と言っていた言葉が思い出され、俺は目をつむった。フィリピン人の学生が英語の中で、そこだけOKAMAと日本語で言ったから、よけいに生々しかった。

しばらく、そのまま眼をつむっていて、されるがままにしていた。少し眠くなってきたな、と思った頃、椅子の背が起きあがり、また半回転した。眼を開くと、前に鏡があり、その中に俺の頭をタオルでつつんだ、あの子の顔があった。眼は自分の手もとを見つめて鏡の中の俺の眼と合わそうとしなかった。タオルでごしごしとこす

られる度に、この頃、少したるみ気味の頬がゆれているひげ面はあまり見られたものではなかった。流れのないよどみの水のようにだった。

「スワンです。コーヒー持って来ました」

「奥においといて。あとで返しに行きますから」

喫茶店の出前がやって来た。シャンブーが終了すると、マスターが櫛とはさみを持って最後の仕上げをした「ちよっときれいにやりすぎたかな」

「たまには、かめへんよ」

店を出る時、ちらっと女の子の方を見ると別の客の頭にカラーを巻きつけていた。ひさしぶりの散髪で頭がさっぱりとして、秋の風が首すじに冷たく感じられた。商店街の中を歩いていると、来る時には眼につかなかった炭火焙煎珈琲スワンと描かれた看板が眼についた。ここに来たら、もしかして彼女に会えるかもわからんなあ、飲み屋やったら通いつめる手もあるけど散髪に通ってもしやあないしな、そんなことを思いながら通りすぎた。昔から、しばしば通りがかりの女に片想いをして来たが、今度もそうだろうか。たった一回の散髪で女にひかれた自分がおかしくなってしまう。女を買おうとしたのは東京に出て来たら、まず童貞をすててやろうという念願を仲々果せずについて、あせったためで、実の所は、ごく純情なのだ。立て看がかつてのなごりで、そこかしこに立っている大学の構内に、社会性も政治性も帯びることなく、オブジェとしての価値もありはしないエリート意識の漂う女子学生達にはいや気がさしていた。かと言って、俺自身も、女を買うのに洋書を持って出かけるという点で、女子学生達と同類であり、タオルで顔をかくした匿名志向の活動家達を、つとめて無視するようにしていた。俺はビールのロング・カンと鶏の空揚げを買って下宿に帰り、飯をたいた。

身長百八十五センチ、体重八十キロ。入学式のために大学の構内に入るなりラグビー部とアメリカン・フット

120/111/17

ボール部から、かなりしつこい勧誘を受けた。体だけは大きくて期待の新人であったが、動作も鈍く、扁平足の見かけだおしなのだ。おまけに眼も悪い。確かに腕力だけは自信があったが、両手で林檎を二つに割ることができてもあまり意味がなかった。ラグビー部に仮入部することになり新人勧迎のコンパでは、上級生からつがれるビールをことごとく飲みほし、林檎割りの特技を見せたりして、すぐにレギュラーだ、などとおだてられたが、練習がはじまると一週間で音をあげて退部してしまった。練習前のダッシュだけでダウンスしてしまったのだ。自分でも情けなかった。ある時期から月に一センチずつ背が伸びはじめ、それが三年ほど続いて、身長伸びが止まると今度は体重がものすごい勢いで増えはじめた。一体、この百八十五センチの体の中には何がつまっているのだろうか。

まず第一に自分が平凡であることに甘んじることできぬ不満。無名であることと平凡の混同。何が平凡であるか理解できぬ、ばかさがげん。宇宙ほどの大きさがあり、芥子粒ほどの実行力もない性欲。未だに皮をかぶり無理やり頭をむき出しにすると異臭を放ち、赤ら顔を苦し気に充血させる性器。いたずらな勃起と無意味な射精。女が欲しいことを直接表現できぬ焦慮。死ぬは易し、生きるは難しなどという、はなはだ実証的でない哲学。出口をふさがれた怒りが表出したにきび。指でつぶすことが唯一の昇華法と信じる狂気。にきび治療薬に対する懷疑。教会のミサの最中にすら血をはらむペニスをしつかりとおさえつけてかくすジーンパンの欺瞞。……そしてこれら諸々のことが、俺という人格を最も具体的に真実に近く表わしているのではないかという不安。

実質のない、ただ巨大なだけの虚ろな箱の中に、それそれにやはり虚ろな泡状のものが充満しているのだ。空虚さの充満とでも言えればよいのか、その中味は、できたり、こわれたり、くっついいたり、大小様々に変化して、いとらえどころがなかった。しかし、その容積だけは、い

ぜんとして実質をとまなうことなしに、どんどん膨脹し続けてきたのだ。そして、これからも膨脹は続いて行く。

いつ頃から、このような昂揚のない膨脹がはじまったのであろうか。風船ならいつかはじける時が来るのだろが、風船の張りつめた緊張もなかった。ついにないだまで、世の中には体制と反体制という善玉と悪玉が存在していたのだが、例の安田トリデの崩壊をきっかけに、今はもうどこかに失なわれてしまった。俺は、あくまで応援する観客の立場でしかいなかったのだが、眼の前で行なわれているでき事の中で善玉と悪玉の役割りがあいまいになってしまい、自分の意識がどちらに属しているのかさえもわからないのだ。これは、俺だけの問題なのか、時代全体の問題なのか、よくはわからないが、自分なりに考えてみると、あの、希望に燃えていたはずの中学一年の時、二つの眼鏡を右足で一つ、左足で一つふみつぶした日からではなかったか、という気がする。俺にとっては、一つの屈辱を捨てて、新たな屈辱と苦痛を得た日でもあった。

俺は、老人のように、ぶ厚いレンズの眼鏡を二つつけて中学に入学した。その二つを外を歩く時と勉強をする時とで使いわけていた。俺の眼は、右眼が遠視と乱視、左眼が近視と乱視、生まれついた時は内斜視で、途中、右眼が弱視となり、後になって複視まで出るという眼科の学術標本のような眼であった。世間では遠眼がきくとされているはずの遠視の右眼が、実際には、物の形がころうじて判別できる程度しか見えない弱視であった。外界の事象を認識するのに、きわめて不便な眼であった。地球上の大部分の人間がながめている、常識的な世界とは全く異った映像が俺を支配していて、彼らと喜怒哀楽を共にすることができないのだ。そういう意識に、俺はずっとがんじがためにされていた。

★神戸っ子トラベルコーナー

★ウィスラー・バンクーバー

7日間
出発日/2月5、9、26日、3月11、18日、4月1、15、27日
費用/出発日より¥247、000/¥284、000、食別別
(大阪出発は¥17、000追加となります)
行程/東京・バンクーバー・ウィスラー・バンクーバー・東京(6名から実施)
カナダ最大のウィスラー・ブラッックコムスキ場、ゴージャスなスノーホリデーを!

★石垣島4日

出発日/3月まで毎日。(年末年始、連休を除く)
費用/1月・¥82、500、2月・¥84、500、朝食3回つき
★沖縄・サイード3日

出発日/3月まで毎日。(年末年始、連休を除く)

talk and talk



＜神戸っ子愛読者サロン＞

★秋の空がぬけるように美しいです。神戸っ子にありがたございました。ヘトランゼの輪郭21フイリ、ラビゴさんのパン職人としてのプライドとやさしさ、やさしい眼の表情がとっても美しいです。神戸の風色、秋色の菊のパレードは見事です。季節の変わり目です。御自愛ください。

始、連休を除く)
費用/1月・¥53、500、2、3月・¥55、500、朝食3回つき
★那覇エコノミー3日

出発日/3月まで毎日。(年末年始、連休を除く)
費用/¥49、100、朝食2回つき
★グアム5日

出発日/毎週木、金曜日
費用/¥99、000
★ハワイ6日

費用/¥139、000
★モルディブ8日

出発日/5月までの毎週火曜日
費用/¥322、000
2名から実施、全食つき
旅程/大阪・シンガポール・コロムボ・マレー・ヒンジ
お問い合わせ、お申し込みはセント

せ。

★寒くなってきました。神戸っ子12月号ありがとうございました。神戸の風色、幾何学的な窓とテーブル、椅子の位置が美しいカメラアングルでとらえられていて、すばらしいと思います。『ファッション』神戸市神戸、神戸がますます魅力的な都市になり、人々の集う都市空間になるのをたのしみにしています。季節柄、くれぐれも御自愛ください。

△宝塚市/丸本明子V

★この度はすばらしい企画を催して下さい。大変うれしく、有難うございました。当日、朝日テレビに出演しておられた中村敦夫さんがちらりと話された講演という言葉と県民会館でというところだけを頼りに、直にお話を聴きたい一心で必死で探してかけつけました。私はこの八月、中村さんと『チェン



白いリゾートアイランド・モルディブ

ラル・ツァー(392)2008
★ドイツワインとロマンの旅
16日間
期間/6月8日出発/23日帰国
費用/¥478、000

旅程/大阪・フランクフルト・ベルリン・カステル・トリアー・ヘクス・トミッヒェル・シュタット・ミッセル・テンペル・クレーン・シュタット・ミッセル・ハルヴァン・ゲン・リヒテンシュタイン・イン・タール・ケン・グー・メア・ス・ブル・ク・ハイデルベルグ・ペン・ク・スト・フランクフルト・コペン

マイの首」との出会いによって大きな感動を受け、今までの心を開けるきっかけを与えて下さいました。今回、気さくに、それでいて熱気こもったすばらしいお話を聴かせて頂き感激ひとしおです。大変身勝手なお願ひで恐縮ですが、もし講演を録音されておられるのであれば、テープにとらせて頂けないでしょうか。子供達(大学生)に聴かせてやりたいと思います。それから貴誌を読ませて頂くには神戸の住人ではないといけないので、どうか、お忙い中恐れ入りますが、お知らせ頂きたく存じます。
△大阪市都島区・友宗八重子V
★チェンマイの首と東南アジアの旅」の講演会、楽しみにして頂きました。時間切れで討論が出来ず、実に残念でした。あの位の聴衆でもう少し小型の会場で、あと一、

ハーゲン大原
お問い合わせ、お申し込みはローテ・ロゼ/中央区北野町4-9-14(222)3200
★スキーツアー・イン赤倉
出発日/2月16日/19日
募集人員/50名
費用/¥31、000

行程/三ノ宮21時28分発/大阪22時20分発/妙高高原8時52分着/ホテル9時30分着/着後スキー(泊)2日目終日スキー(泊)3日目出発までスキー/ホテル13時30分発/直江津15時51分発/大阪21時25分着/三ノ宮22時16分着
★サンエックかにかにバック
出発日/2月25日までの毎週土曜(12月31日を除く)
募集人数/毎回40名
費用/大人¥17、200から、子供¥13、600から
行程/三ノ宮13時24分発/城崎17時1分着/香住17時39分着(泊)香住12時38分発/城崎13時12分発/三ノ宮17時20分着
お問い合わせ、お申し込みは三ノ宮駅旅行センター(221)0190

二時間、時間の余裕があれば更に理想的です。今後の企画に期待しておして下さい。まずは不取敢御礼迄。
△大阪/石樽信孝V
★邦楽銘演会毎年楽しみにして居ります。本に好きな人達だけで、しみじみと聞ける事大変嬉しい事です。唯、今回始めてお嬢子入りの長が、長男好きな者はやはり素の長男を歓迎致します。頃も三味線もお嬢子が入りますと聞き取りにくくなります。切角の長女、伊十七年の残念に思います。演しものによってお嬢子を入れるよさも解りますが、此の会に限りなく、近頃はお嬢子しか聞けるものもなくなり、お嬢子しか聞けるものもなくなり、どうぞ御一考あって、此の会の長く続きます事を祈っております。
△池田市/山口咲子V

本年も よろしく お願い申し上げます

京料理のゆかしさ趣きを 芦屋 **わらびの里** で



「ハイカラな芦屋で日本情緒豊かなのもいいですね。小槌町の名も縁起がよくてめでたいこと」と華道専正池坊と日本礼道小笠原流煎茶宗家の家元・諸泉祐陽先生が弟子の久保佐希子さんとお茶室で新春の一服を。※茶室もごさいますので、お茶会にご利用いただけます。

京料理

芦屋店

わらびの里

芦屋市打出小槌町30 ☎ (0797) 23・5666 営業時間午前11時～午後10時〈駐車場有り〉

京都本店・京都市山科区小山中島町28 ☎ (075) 591・0911

新宿店・東京都新宿区西新宿2の4の1 新宿NSビル1F ☎ (03) 349・8789



ローラーグループ

“風と一緒に走りたい”

ROLLER CATS

神戸山手女子短期大学
ローラースケート同好会

キャプテン

段 めぐみ

私たちのグループの発足は80年。数えて4代目のキャプテンに昨年の夏、選ばれ、只今頑張っています。大学へ入学した時、クラブ紹介でこの同好会を知り、入部しました。

練習日は毎週水曜日。大学の講義が終わった者から、各自がそれぞれローラー六甲に集まり2時間程度すべります。1年生の正式部員は、現在24名で、今はステップができる人が数人いる程度ですが、ローラーで踊れる位にまでうまくなりたいと全員はりきっています。また、新入部員の入部も大歓迎です。(写真中央顧問片山宏之先生)



日本ローラースケート連盟公認

すべることはスポーツなんだ

Roller Rokko

神戸市灘区新在家北町2丁目1-1 ☎(078)841-1088

国鉄六甲道南へ徒歩5分
国道43号線、小泉製麻北
●駐車場100台収容

営業時間●AM10:00~PM10:00

日曜・祝日●AM9:00~PM10:00

貸靴料●100円

滑走料 ●一般・学生…1,000円
(入場料含む) ●中・高生……800円
●小学生 ……600円

(平日フリータイム・日祝は3時間)

